

科目名	人間の発達と健康Ⅱ(成人期～老年期)								
英文科目名	Human Development and Health II								
担当教員	増田元香、池口佳子、宗澤紀子、武居尚子、松井望								
授業形態	講義								
学年	1 年	クラス	1	開講学期	前期	単位区分	必	単位数	2
ディプロマ ポリシー	豊かな人間性が高い倫理観、幅広い教養を身につけ、他者を思いやり、尊重できる。 / 十分なコミュニケーション力をもって援助的人間関係を築ける。 / 個人、家族および地域社会の人々に対して、それぞれの健康レベルに応じて専門的知識と技術を駆使して、エビデンスに基づいた看護を実践ができる。 / 看護専門職としての機能の発揮に努め、関連分野の人々と連携・協働できる。 / 様々な価値観や文化を持つ他者を理解し、適切な支援ができる。								
授業の目的 ・ 到達目標	授業の目的 看護の対象である人間を、生涯にわたって発達し続ける存在として捉え、人間の各発達段階の特徴と健康上の課題およびその背景や影響要因について理解することを目的とする。 この授業では、成人期から老年期にある人々について学習する。 到達目標 1.成人期・老年期にある人々の成長・発達と生活の特徴について説明できる。 2.成人期・老年期にある人々の健康問題とその生活への影響について説明できる。 3.成人期・老年期にある人々の健康レベルに合わせた看護の特徴について説明できる。								
授業概要	1. 成人期の発達と発達課題：ライフサイクルと成人期 2. 成人期にある人々の就労と健康問題の関連 3. 成人期における特徴的な健康問題と背景①：喫煙 4. 成人期における特徴的な健康問題と背景②：生活習慣病（がん、心疾患、脳血管疾患） 5. 成人を対象とした保健・医療・福祉行政 6. 健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点 7. 成人の健康レベルと看護の特徴－急性期・回復期・慢性期・終末期の看護 8. 老年期の定義と特徴 9. 老年期の加齢変化と生活への影響①：百寿者研究の成果から 10.老年期の加齢変化と生活への影響②：高齢者の消化機能と栄養 11.老年期の加齢変化と生活への影響③：高齢者の感覚器の変化 12.老年期の加齢変化と生活への影響④：高齢者の認知機能の変化 13.老年期の加齢変化と生活への影響⑤：健康格差と背景要因 14.高齢者の健康維持に関する工夫をインタビューする 15.まとめ								
学習課題 予習・復習	【成人期】 (予習) 授業は、教科書の該当する部分を読んでいること、および下記の課題を行っていることを前提に、追加資料に基づいて進める。 したがって、教科書は必ず熟読し、加えて 下記の課題について A4 用紙 1 枚にまとめて授業に参加し、授業後に提出すること。 提出された課題は、翌週返却するので見返すこと。 1 回目：教科書 p.2～40、「18 歳選挙権に関する自己の意見」 2 回目：教科書 p.42～58、「非正規雇用労働者が増えることによる問題点」 3 回目：教科書 p.122～150、「喫煙の健康に及ぼす影響について」 4 回目：教科書 p.151～169、「がん対策基本法の概要」 5 回目：教科書 p.172～222、「アンドラゴジー（成人教育）の概要」 6 回目：教科書 p.224～277、「健康（保健）信念(Health Belief)モデル」の概要 7 回目：教科書 p.293～323、「死にゆく人の心理過程について」 (復習) 授業内で触れた内容のうち、十分理解できていないことについては、教科書・参考書を用いて復習しまとめておくこと。 【老年期】 (予習) 8 回：高齢者の定義、年齢区分、世帯の特徴、エイジズムについてまとめる。 9 回：百寿者の特徴についてまとめる。								

	10 回：高齢者の消化管、栄養状態の加齢変化についてまとめる。 11 回：高齢者の視覚、聴覚の加齢変化についてまとめる。 12 回：高齢者の認知機能の加齢変化についてまとめる 13 回：高齢者の健康の特徴と経緯状態についてまとめる 14 回：高齢者の健康歴の聴取方法についてまとめる 15 回：成人期、老年期の授業全体を振り返り、学習成果を整理する。 (復習) 授業内で触れた内容のうち、十分理解できていないことについては、教科書・参考書を用いて復習しまとめておくこと。授業の内容、キーワードを整理してまとめておくこと。 予習・復習のまとめは提出を求める場合がある。予習・復習の成果を小テストなどで確認する。 1 回の授業に対する予習・復習合わせて 4 時間程度とする。
授業方法	講義および演習を行う。 予習に基づいて授業を進めるので、積極的な参加、発言を期待する。 各授業後に振り返りシートを提出してもらい、その結果については次回の授業で学生にフィードバックする。
成績評価の基準	筆記試験で、総合的に評価する。
教科書	林直子/鈴木久美他編：成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 改訂第 3 版, 南江堂, 2019. ISBN 9784524241767 正木治恵/真田弘美編：老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 改定第 3 版, 南江堂, 2020. ISBN 9784524227099
参考書	服部祥子：生涯人間発達論 第 2 版 医学書院 2010. 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社, 2010. 北川公子：老年看護学 第 9 版, 医学書院, 2018. その他、講義において適宜提示する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験の内容	-
実務経験の当該科目への活用	-